



繪入 教訓

比賣鑑

十二

9  
1628  
12







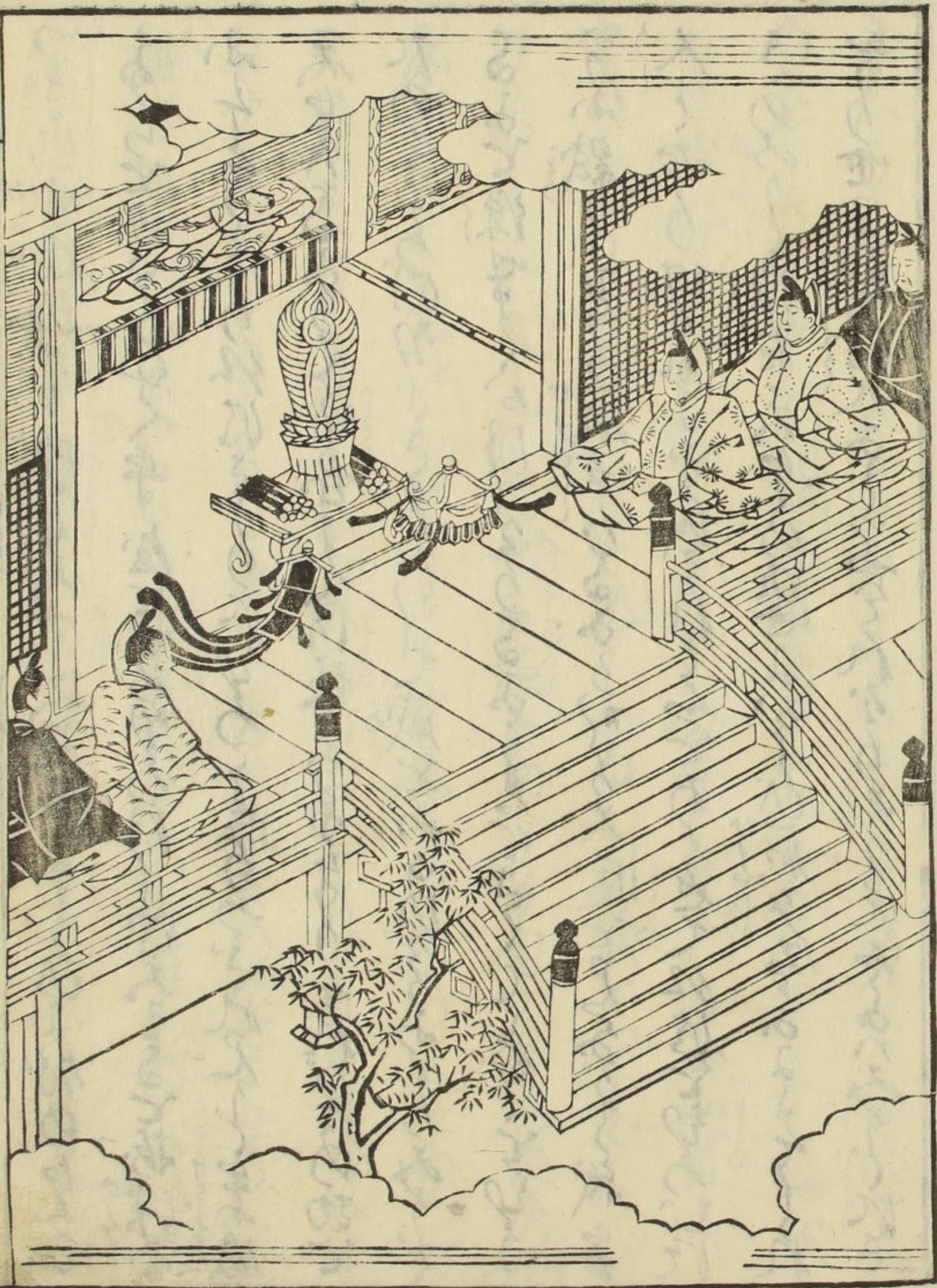


中徳とらめ徳信の御代にまよあづしびたぐらに世  
 とらんくわら河の若行と徳とてがとけよなりとてし  
 けらうり徳宗さうりにおらかつれくあうさ徳信にお  
 とらうまうりまがまよる人皇二十七代継神天をいれ世  
 よらうり梁の身も達者くふりのことりて藤原頼  
 月まよはれはてすむつごのみとて欽明天皇の御代に  
 百瀬よりりりてく秋邊の徳ひのなむは徳天を御代に  
 とてくまうりまがまよるまうりてせまうり頼月を御代に  
 おはとらうりせまうりてすけつとて徳那尾具あて平朝八神は  
 いたのみごの徳あまぶと神はいおまよるまうりてせまうり

天の神と徳あまぶとまうりてせまうりてすけつとて徳那尾具あて平朝八神は  
 あらうりて徳信と頼月かまびぬ頼月よりりてくその向來に  
 家とて寺とて徳とてくまうりてせまうりてすけつとて徳那尾具あて平朝八神は  
 かりその徳信よ徳信と有りて死ぬるまうりて尾具あて平朝八神は  
 いたれはてをうりまがまよるまうりてすけつとて徳那尾具あて平朝八神は  
 みどくまうりておほりて徳信と徳信の御代にまよあづしびたぐらに世  
 とらうりまがまよるまうりてすけつとて徳那尾具あて平朝八神は  
 がみ守屋大連となり頼月がま馬み入長とわらうりてまよるまうりて徳  
 はとおまうり百瀬よりりてく徳信と徳信の御代にまよあづしびたぐらに世  
 降くあまうりまがまよるまうりてすけつとて徳那尾具あて平朝八神は



ちぬ守屋連中は揚海を以てはとらせんとさうひん  
 わりんと養へるべしかたふんべしとの持ふよりて守屋  
 堂治と相り以像とやそそその度とありけりよすく傍尼  
 とおひしあつりいけりよとやけりふよりてけりけり  
 らんとおひしあつりいけりよとやけりふよりてけりけり  
 とおひしあつりいけりよとやけりふよりてけりけり  
 仏法とてさうりつごのみを以て用明夫を以て世とありて  
 やとあつりいけりよとやけりふよりてけりけり  
 此後またくまのしんせんとてその用ののほろ麻をたまや  
 かりいねりいけりよとやけりふよりてけりけり





つぎに宮絶絶はよき事なり。又殿戸なるひは依の申子  
 むらとてうひく申す金とせりなり。四天皇とて極津必  
 小々とてより依はさりにむらとてなり。つぎにんご崇後  
 天皇はゆるゆるとていして依はよつあまなり。んごその功と  
 たのこころひやいさもいして威とつらひらるあなり。みごと  
 るよと珠せまへちほくろひまもいしていひいよとて  
 こふ裁しよる殿戸なるよりかろ大進とていひいよとて我方  
 人となりけり。あまたいふれとてあてせし依はとていひ  
 きのみご推古天皇の依世よかひ殿戸なるよとていひ  
 とり世よを依太あていひいなり。あつらにをいひいよとていひ

きたらしくあゆりたるよも又あまなり。そのつぎに  
 乃依世よいよるよ身帳夷帳夷があ入麻あひつとていひ  
 とり威勢いよくはりなり。入麻と殿戸のよ山背と  
 申あつらりたるあまをいしと綴しつねに朝儀とていひ  
 けるあつらりく大見やあの中臣強みあていひいよとていひ  
 麻とつららるばるいよとていひいよとていひいよとていひ  
 天皇とていひいよとていひいよとていひいよとていひ  
 さいまご家ものこもあつらりたるが推古の依世よりのら  
 論は相あていひいよとていひいよとていひいよとていひ  
 唐よとていひいよとていひいよとていひいよとていひ



























































鏡乃のやまのひりよそのはふれおにびりまのり  
 世にあらうものすもたをたよつる揚成が鏡たすふす  
 なるのちかたをたよつるのちかたをたよつる  
 へ言歎よめくちりちるにきりつるもどかちり  
 といふもていづるもその海鏡のよふちかたをたよつる  
 人のちかたをたよつる人のちかたをたよつる  
 して鏡よめくちりちるにきりつるもどかちり  
 の武帝のちかたをたよつる人のちかたをたよつる  
 選良のちかたをたよつる人のちかたをたよつる  
 と者の記記とあてちびりり思をすすいひのくれはたか

かりにこそそのちかたをたよつる人のちかたをたよつる  
 して鏡よめくちりちるにきりつるもどかちり  
 の武帝のちかたをたよつる人のちかたをたよつる  
 選良のちかたをたよつる人のちかたをたよつる  
 と者の記記とあてちびりり思をすすいひのくれはたか







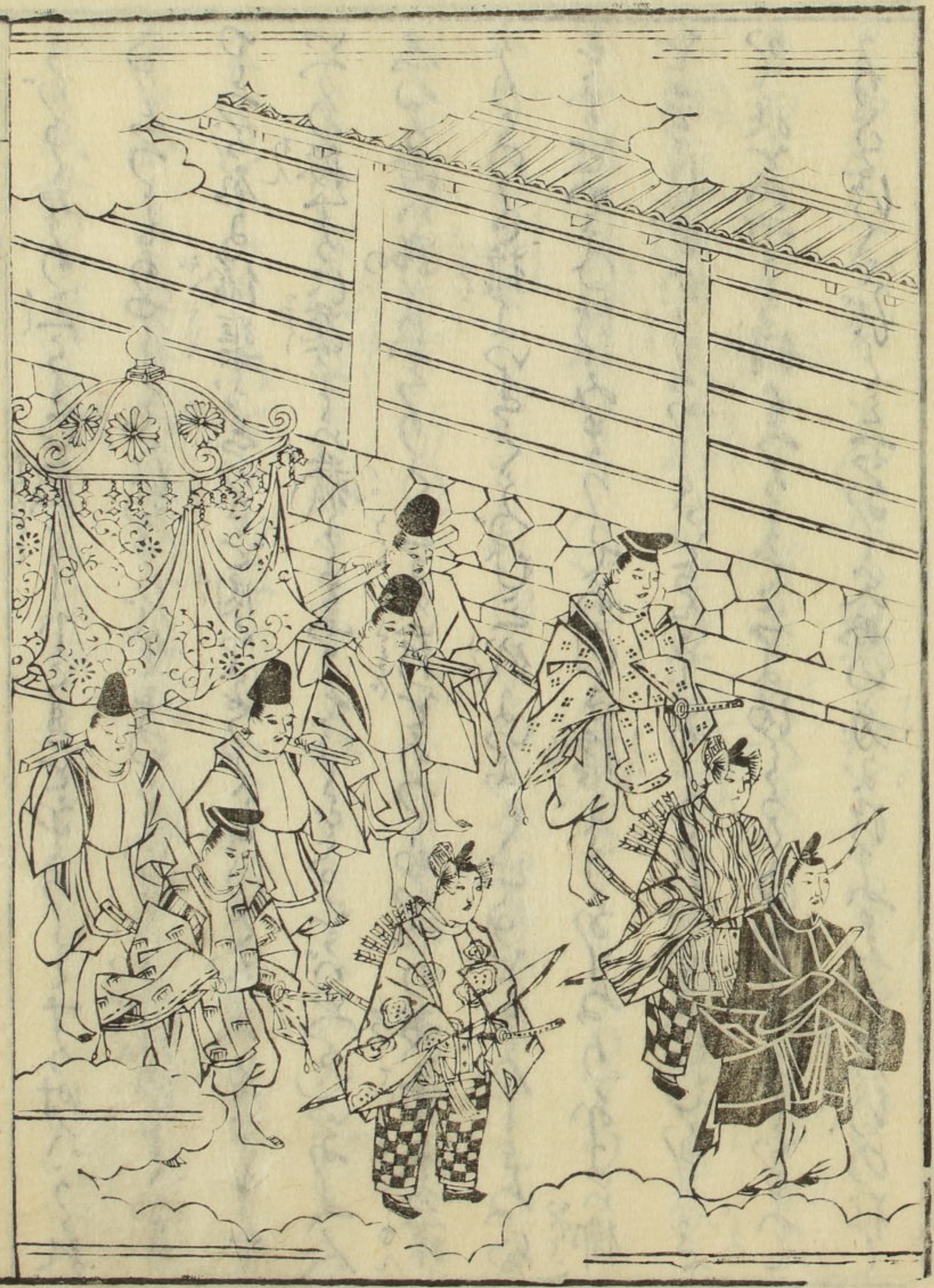








うひく時人ありけしあまを死なむ楚人のあやうかありのその  
 中よあうんがとれやけるんといひこしと衛公その古法際定  
 みが墓とあふれく平法のおふやとより燕のつもの齊れ  
 鼎墨の城とあけつ時人の墓とせりてかひひや齊人こ  
 とととく河とあひいりてあつふ十倍せり漢の王莽樊如れ  
 刑つてく陳良をたてりてり古んがのやとるやとあれ  
 とら志のとすら事のこのとあり別あがく楚の南の客天  
 のありの親戚死とつ時そのとむじと作てすく後よその  
 貴とつじ春の西は儀渠のあわり親戚死とつ時あつとつ  
 てこととやその行とらんこれと登返といふそのらよなるや













ふあひえてうみくりかゝるあづらうきものあつたむらさきうらた  
あしてあつたむらさきうらたむらさきうらたむらさきうらた  
てはむらさきうらたむらさきうらたむらさきうらたむらさきうらた  
むらさきうらたむらさきうらたむらさきうらたむらさきうらた  
むらさきうらたむらさきうらたむらさきうらたむらさきうらた  
むらさきうらたむらさきうらたむらさきうらたむらさきうらた

比賣鑑卷第十二

右比賣鑑述言十二卷畢之此次紀行十九卷板鈔出来  
次第可合流布候

寶永六龍集已及載子血春穀且

江都日本橋南壹丁目 須原茂兵衛藏版



